

## 研究活動報告 子育て支援プログラム活動報告

著者	岩本 沙那佳
雑誌名	心の危機と臨床の知
巻	18
ページ	65-67
発行年	2017-02-28
URL	<a href="http://doi.org/10.14990/00002846">http://doi.org/10.14990/00002846</a>

## 子育て支援プログラム活動報告

### 一、はじめに

本稿では甲南大学人間科学研究所と甲南大学心理臨床カウンセリングルームの共催で実施された子育て支援事業についての活動報告を行う。今年度は、「親子相談」「うりぼうくらぶ」「子育てサークルまつばつくり&プレイグループどんぐり」が開催された。

### 二、親子相談

親子相談は、第一・三火曜日の午前中に、就学前の子どもをもつ保護者を対象としている。子どもの発達や子どもへの関わりかた等、育児に関する不安や悩みを抱える保護者が気軽に相談できる窓口として設けている。本年度は一組の親子が利用した。

### 三、うりぼうくらぶ

うりぼうくらぶは、第二・四火曜日の午前中（十一時から十二時半）、年間二四回開催した。対象は地域に住む就学前児と保護者である。本年の利用者は、新規四二組、のべ一六五組三九九名の親子が利用した。うりぼうくらぶは、子どもの遊び場や保護者の交流および相談の場となることを目的とし、本学の一室を使用し、親子が同室で過ごす。スタッフは、本学心理臨床カウンセリングルーム相談員（筆者）と本大学院修士（臨床心理士）、本大学院生一名から構成される。前半は親子ふれあい遊びや手遊びなど、親子の関わりを促進するような設定遊びである。また、季節に合わせたプログラムも取り入れている。後半は、自由遊びである。子どもの自発的な遊びを尊重しつつ、親の育児相談や親同士の交流を促進するような場を設けている。参加者のなかには、子どもの幼稚園や保育園入園を控え、集団生活の練習を目的としている者もいる。参加者からは、「たくさんの子どもと触れ合う機会ができてよかった」「季節のプログラムや家でできない内容が多くてよい」などの感想が寄せられた。

#### 四、子育てサークルまっぼっくり&プレイグループど んぐり

子育てサークルまっぼっくりは、子育て中の親が、非日常的な体験を通して、自身を振り返ったり、子育てについて学んだり、保護者自身がリフレッシュすることを目的としている。0歳から学齢期までの子どもをもつ保護者を対象に、一クール全五回のグループ活動を年間二クール行った。プレイグループどんぐりは、子育て経験者や本大学院生が子どもの託児を担当した。

#### 四―一、二〇一六年度前期(第二七期)

第二七期は、新規参加者四名、継続参加者三名、計七名の保護者と子ども二名が参加した。

第一回…「体験ワークⅠ」筆者がファシリテーターを務め、参加者が自己紹介も兼ねたグループワークおよびフリーデイスカッションを行なった。主に、子育てについての悩みや情報交換について話し合われた。

第二回…「体験ワークⅡ」筆者がファシリテーターを務め、コミュニケーションについて考えるグループワークの後、フ

リーデイスカッションを行った。参加者からは、「みなさんの子育ての悩みを聞いて心が楽になり、リフレッシュすることができた」との感想が寄せられた。

第三回…「アート体験」本大学心理臨床カウンセリングルームの内藤あかね相談員を講師に迎え、パステルカラーを用いて描画した。参加者からは、「自分の気持ちや考えを色であらわしながら、客観的に心を整理することができて、すっきりとした気持ちになった」「きれいな色を見ているだけで幸せな気持ちになった」との感想が寄せられた。

第四回…「茶道体験」本大学学生相談室の友久茂子相談員を講師に迎え、茶道の知識や作法の意味などをご教示いただき、参加者がお茶をたてる体験をした。参加者からは、「日常とは違う異空間にとても気持ちが洗われ、育児とは思えないほど、ゆっくりゆったりとしたひとときを過ごすことができた」「日頃ない静の時間を大切に過ごせた」と感想が寄せられた。

第五回…「子育てのお話」本大学名誉教授の松尾恒子先生を講師に迎え、「甘えと自立」をめぐって、参加者が話し合った。

全体を通して、参加者がこれまでの育児を振り返り、子どもへの関わりについて確認したようだった。また、グループ参加をきっかけに夫婦で子育てについて話した参加者もい

た。一方、プレイグループどんぐりに参加した子どもは、回数を重ねるにつれ、スタッフだけでなく子ども同士の交流も増え、遊びも活発になった。

#### 四―二、二〇一六年度後期（第二八期）

第二八期は、新規参加者一名、継続参加者三名、計六名の保護者と三名の子どもが参加した。

第一回…「体験ワークⅠ」筆者がファシリテーターを務め、参加者が自身の価値観を見つめなおすことを目的としたグループワークを行なった。

第二回…「アート体験」本大学心理臨床カウンセリングルーム内藤あかね相談員を講師として迎え、参加者は「過去・現在・未来」をテーマに描画をした。

第三回…「体験ワークⅡ」筆者がファシリテーターを務め、参加者は母親や妻としてだけでなく、個人としてのこれまでの経験に焦点を当てて振り返るワークを実施した。

第四回…「茶道体験」本大学学生相談室の友久茂子相談員を講師に迎え、五感に注意を向けながら茶道体験を行った。

第五回…「子育てのお話」本大学名誉教授の松尾恒子先生を講師に迎え、子育てについて話し合った。

全体を通して、参加者が子どもと離れて自分のことを話したり、昔のことを思い出したりする作業を通して、自身の気持ちや考えをグループのなかで表現した。また、親子ともにリフレクシユできた期間だったと感想を述べた参加者もいた。一方、プレイグループどんぐりについて、子どもたちは回数を重ねるごとにスタッフとの関係性が構築され、子どもが安心して過ごし、遊ぶ時間が増えていった。

#### 五、おわりに

現在は、近隣の小児科や児童館などに案内を配布し、参加利用者を募っている。今後は、参加者のニーズに沿った実施内容の検討および検証を改めて行い、地域に根ざした子育て支援活動をより発展させていく所存である。

（岩本 沙耶佳）